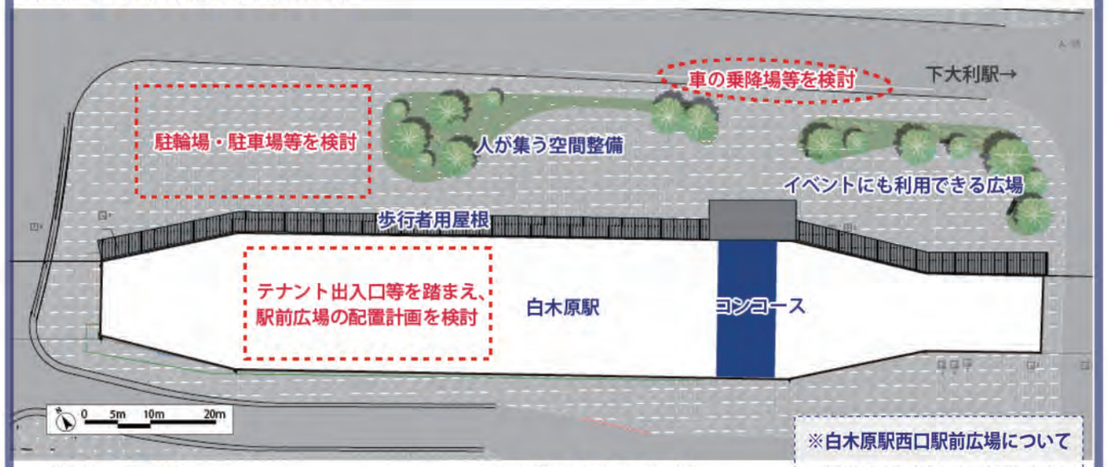
※図はイメージであり、確定したものではありません。

4．整備イメージ

（4）白木原駅東口駅前広場

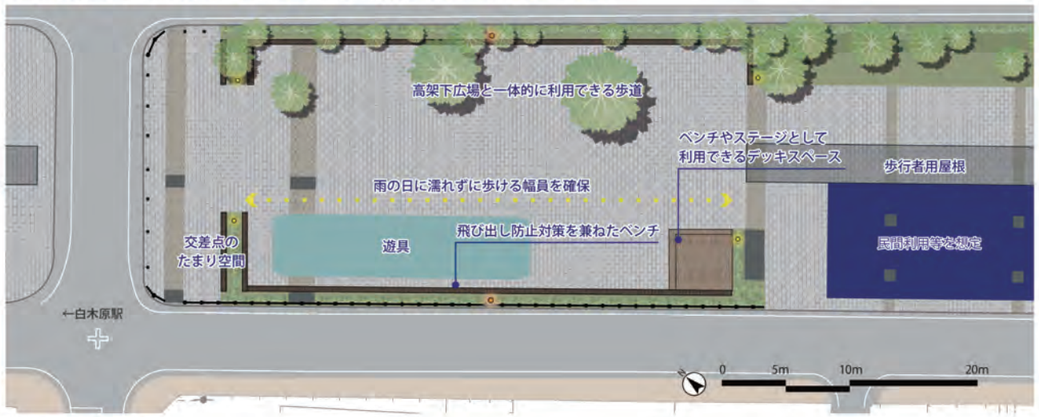


【機能、配置】
- コンコース前にイベント等に利用できる広場（1,000 ㎡程度）を整備する。
- 下大利駅方面へと連続する歩行者用屋根を設置する。
- 周辺情報等を発信する機能を配置する。

【空間づくりの方針】
- 下大利駅方面へと連続するみどり豊かな空間とする。
- 駅舎デザインを踏まえた空間づくりを行う。

※白木原駅西口駅前広場について
- 駅前広場整備（一部駅舎側は除く）が完了していることから、今後東口駅前広場の検討とあわせ、必要に応じ歩行者用屋根設置等の検討を行い、本計画の整備方針との整合を図る。

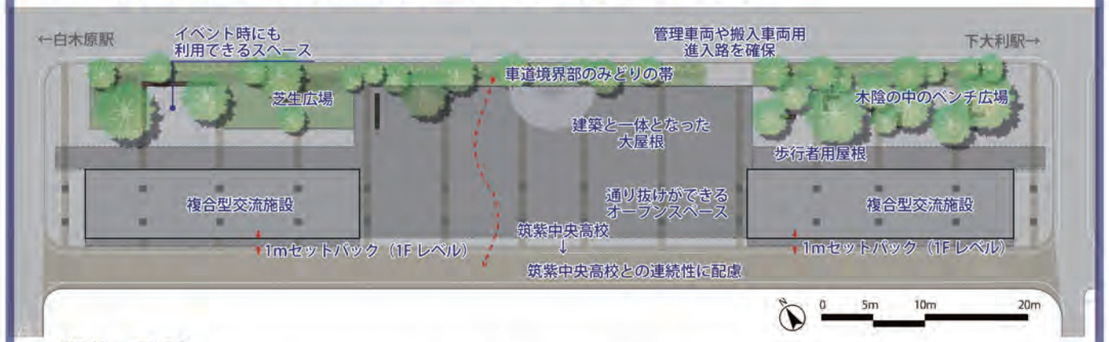
（5）交流広場・広幅員歩道　（白木原駅～下大利駅間）



【機能、配置】
- 高架下と前面広幅員歩道を一体的なデザインとし、約 1,000 ㎡程度の面積とする。
- 子ども向けの遊具を配置する。
- 柵や植栽帯を配置し、車道への飛び出しを防止する。

【空間づくりの方針】
- 子育て世代が利用しやすいような工夫を施す。
- 高架下の民間利用範囲と一体的な空間を形成するよう配慮する。

（6）広場及び大屋根を備えた複合型交流施設（筑紫中央高校前）



【機能、配置】
- 大屋根を備え、雨天でも利用できる約 1,000 ㎡程度の広場とする。
- 市民活動スペースや子育て世代向けスペース、青少年の活動の機能と民間施設とが一体となった、多世代が交流できる機能を持つ複合型交流施設を配置する。
- 大規模なイベント等に対応できる設備（ステージや電気設備等）を配置する。

【空間づくりの方針】
- 広場、歩道、建築が一体となり、多様なイベント等に対応できる空間づくり。
- 日常的な利用も想定した居心地の良い空間づくり。
- 高架下の特性を活かした、立体的な空間づくり。

複合型交流施設の建築について

【建物の配置】
- 南北方向の歩行動線の連続性を確保した配置とする。
- 建築施設の間に大屋根空間のある広場を設け、南北の２棟で構成する。

【大屋根の一体性】
- 広場の使いやすさに配慮し、柱の少ない広場空間とするため、建築施設と一体となった構造を検討する。

【建築物の高さ】
- 高架下建築物の高さは低く抑え、高架下に視線の抜けを確保する等、利用者や近隣住民等に圧迫感を与えないデザインとする。
- 建築物の高さを揃え、まとまりある街並みの形成に配慮する。

※**セットバック**：建物等を建築する際、敷地や道路境界から後退させることを指す。

【建物のセットバック】
- 西側は歩道が無いため、安全性や圧迫感軽減、裏のない施設計画に配慮し、1 階レベルについては 1mセットバックする。

【筑紫中央高校とのつながり】
- 東西方向のつながりに配慮し、広幅員歩道、高架下、筑紫中央高校との連続性をつくる。
- 西側道路（筑紫中央高校前区間）については、筑紫中央高校との連続性に配慮し舗装の高質化を行う。
- 筑紫中央高校との一体感を演出する工夫を施す。（花壇や植栽等）

【設備機器】
- エアコンの室外機等の設備は、屋上等目立たない場所に設置したり周囲から見えないよう目隠し等を設け、建物の裏側感がでないように配慮する。

※図はイメージであり、確定したものではありません。

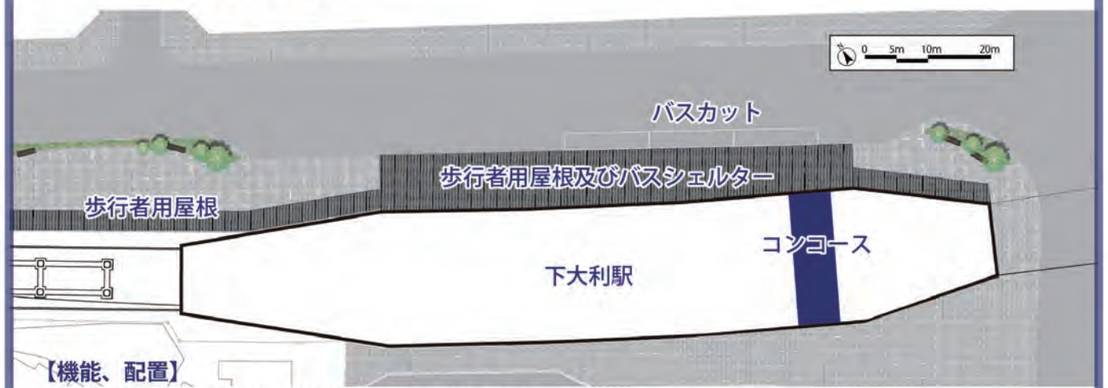
4．整備イメージ

（7）下大利駅北側新公園

【機能、配置】
- 公園の中央には地域活動の拠点となるような広場を整備する。
- 歩行者用や公園利用者用の休憩施設（ベンチ等）を設ける。
- 道路に囲まれていることから、飛び出しの防止等安全性に配慮する。

【空間づくりの方針】
- 西側の見通しを確保し、高架下及び広幅員歩道と一体的な空間づくりを行う。

（8）下大利駅東口駅前広場

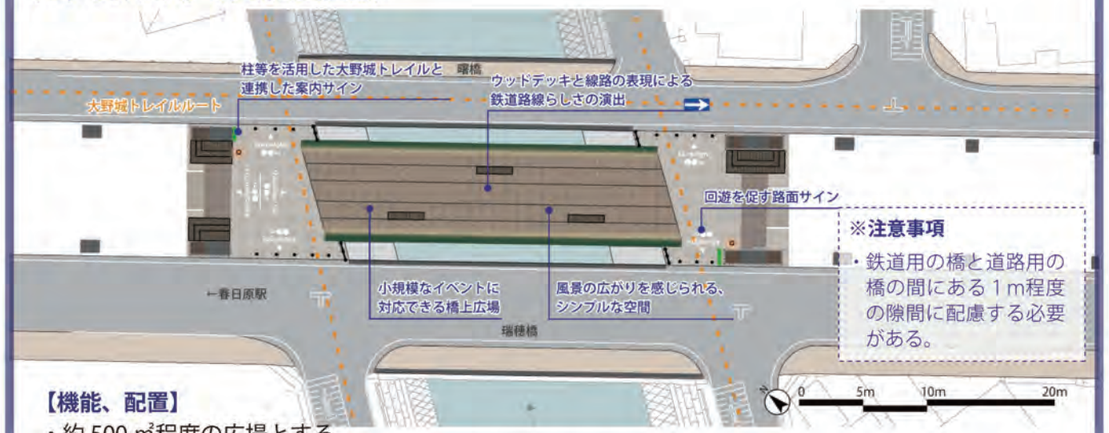


【機能、配置】
- 駅舎側にバス停及び一般車用乗降場を整備する。
- 駅舎からバス停まで雨に濡れずに歩ける歩行者用屋根を設置する。
- 歩行者用屋根とバスシェルターを一体的な屋根として設置する。
- 白木原駅へと続く歩行者用屋根を設置する。
- 周辺情報等を発信する機能を配置する。

【空間づくりの方針】
- 白木原駅方面へと連続するみどり豊かな空間とする。
- 駅舎デザインを踏まえた空間づくりを行う。

※下大利駅西口駅前広場について
- 暫定整備時から地元まちづくり協議会等と、将来を見据えた整備方針についての意見交換を継続しており、今後も本計画の整備方針との整合を図りながら検討を進める。

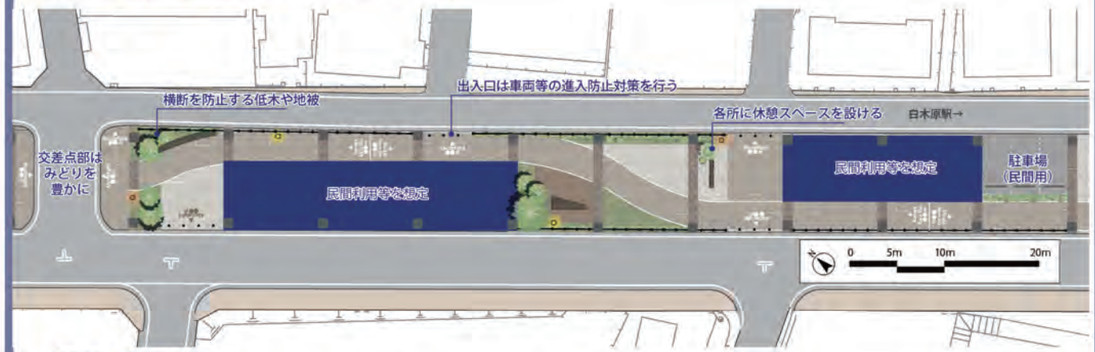
（2）交流広場（牛頸川交差部）



【機能、配置】
- 約 500 ㎡程度の広場とする。
- 大野城トレイルの動線が交差する場所として、サイン等による情報案内機能や、大野城トレイル関連の簡易なイベントができるスペースを確保する。

【空間づくりの方針】
- 日常時は憩いの広場として、イベント時には多目的に利用できる、使い勝手の良い空間づくり。
- 高架の柱が無いことから、牛頸川を中心とした風景の広がりを感じられる空間づくり。
- 線路や既存の鉄道橋を活用し、鉄道路線の名残を感じることができる空間づくり。

（3）遊歩道（春日原駅～白木原駅間）



【機能、配置】
- 安全で快適な遊歩道空間を確保する。
- 交差点部や一定間隔ごとにたまり空間を配置する。
- 柵や植栽帯を配置し、車道への飛び出しを防止する。

【空間づくりの方針】
- 質の高い遊歩道を連続させることにより、沿線価値の向上を目指す。
- 一連の遊歩道がメリハリのある空間となるような工夫を施す。
- 歩行者や大野城トレイル利用者の憩いの空間づくりを行う。
- 民間利用も想定し、一体的な利用ができるよう配慮する。

4．整備イメージ

【構造物等の各要素について】

構造物等の各要素については、下記のような考えのもと、高架下周辺全体のデザインの統一性に配慮します。

①舗装
歩道や広場、公園等、高架下周辺の景観が一体的に感じられるよう配慮し、整備箇所に応じた舗装とします。

②ファニチャー
ベンチ等のファニチャーは、空間の広がりが感じられる控えめでシンプルなものを配置します。

③安全施設
車止めや柵等の安全施設は、安全性を担保しつつ、控えめでシンプルなものを配置します。

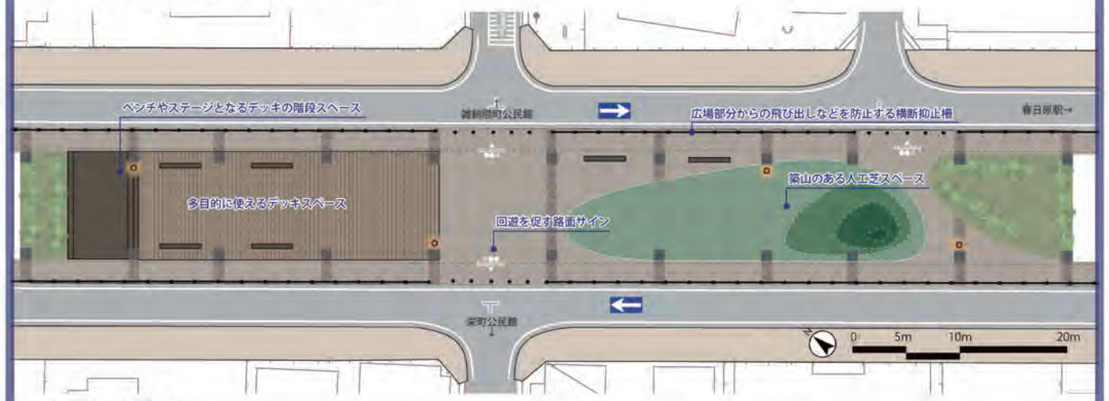
④植栽
公園のようなみどり豊かな歩行空間を形成します。

⑤サイン
目立ちすぎずシンプルで効果的な案内や誘導を促すものを配置します。

⑥照明
場所ごとの機能性に配慮した照度を確保し、高架下周辺の夜間景観に調和する照明を配置します。

※ファニチャー：ベンチや街路灯、モニュメント等、公共空間に設置する構造物のことを指す。
※サイン：周辺の情報案内のための看板や路面標示等のことを指す。

（1）交流広場（春日原駅北側）

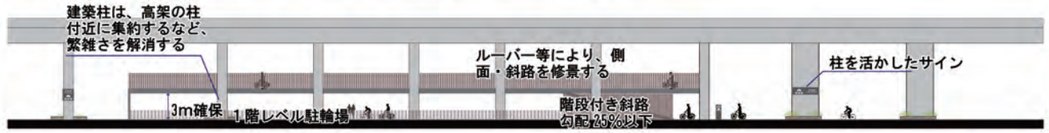


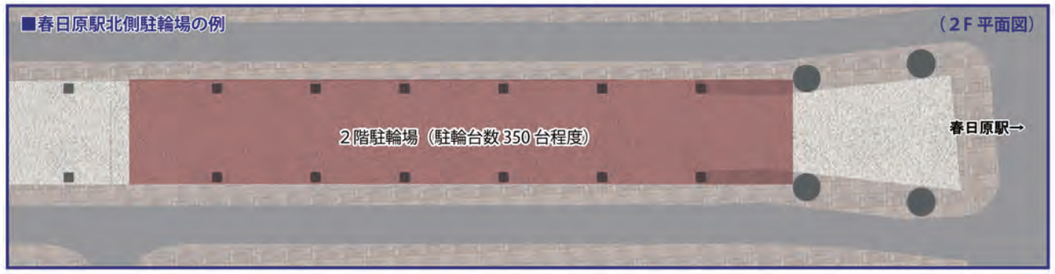
【機能、配置】
・約 1,000 ㎡程度の多目的に利用できる広場とする。
・両側を道路に挟まれていることから、安全性に配慮した施設配置とする。

【空間づくりの方針】
・日常時は憩いの広場として、イベント時には多目的に利用できる、使い勝手の良い空間づくり。
・歩行者が足を止めたくなるような、季節感のある憩いの空間づくり。
・側道の歩道部分も一体的に利用した開放的な空間づくり。

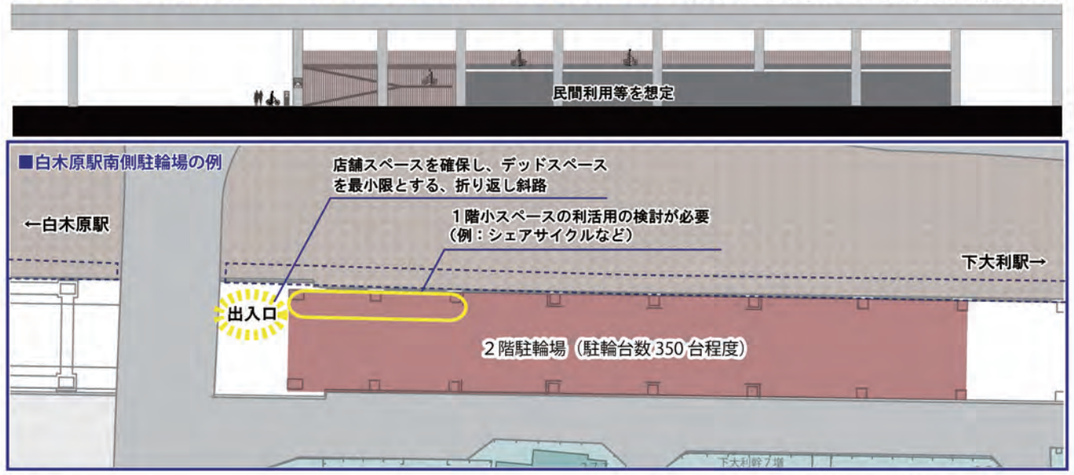
（9）駐輪場

①１階遊歩道、２階駐輪場の場合（春日原駅北側、白木原駅北側）





②１階店舗＋２階駐輪場の場合（白木原駅南側、下大利駅北側）※テナント出店の可否については継続して検討します。



【機能、配置】
・自転車の利便性・安全性に配慮した駐輪設備とする。
・駐輪場出入口部は、安全性に配慮したたまり空間を確保する。

【空間づくりの方針】
・圧迫感や繁雑さを抑えた建築とする。

※駐輪場に関して（全箇所共通）
・自転車動線等を含む自転車活用推進計画は、令和 2 年度に作成予定であり、その内容を本計画に反映させるものとする。駐輪場規模（台数）や自転車動線については、自転車活用推進計画との整合を図る。

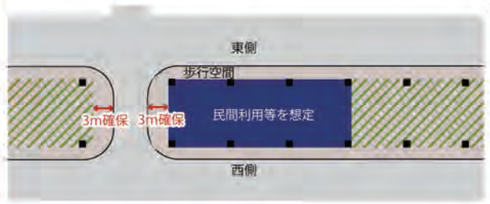
5．民間施設等整備方針

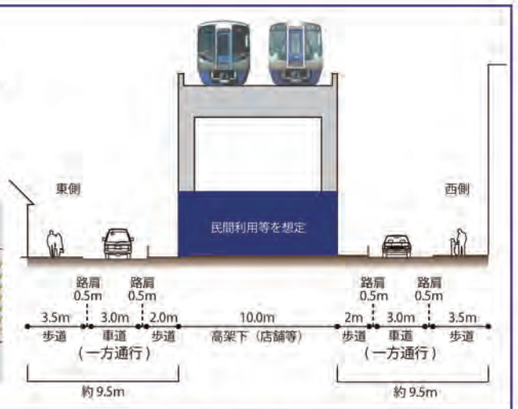
（1）配置の考え方

①セットバック

春日原北側

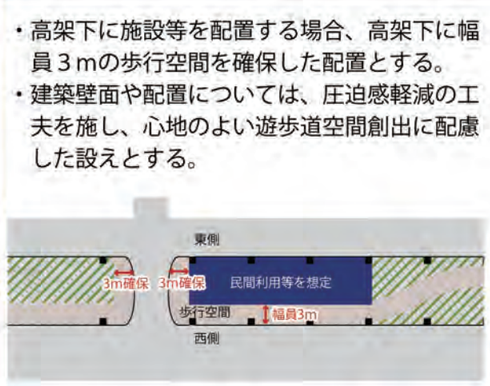
・高架側に歩道が確保されているため、セットバックの必要はない。

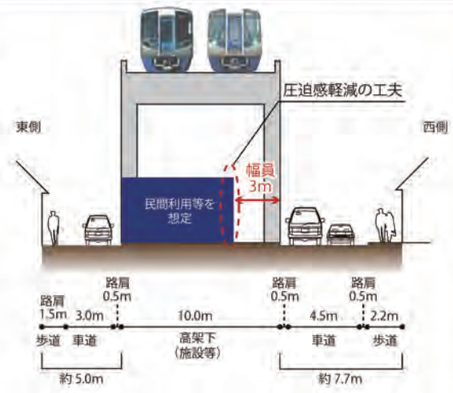




春日原駅～白木原駅間

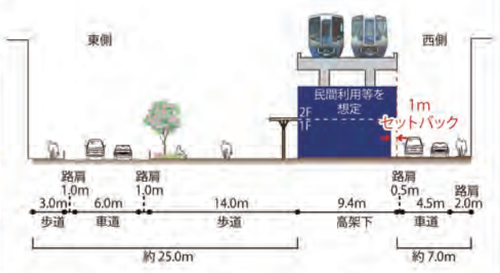
・高架下に施設等を配置する場合、高架下に幅員３mの歩行空間を確保した配置とする。
・建築壁面や配置については、圧迫感軽減の工夫を施し、心地のよい遊歩道空間創出に配慮した設えとする。





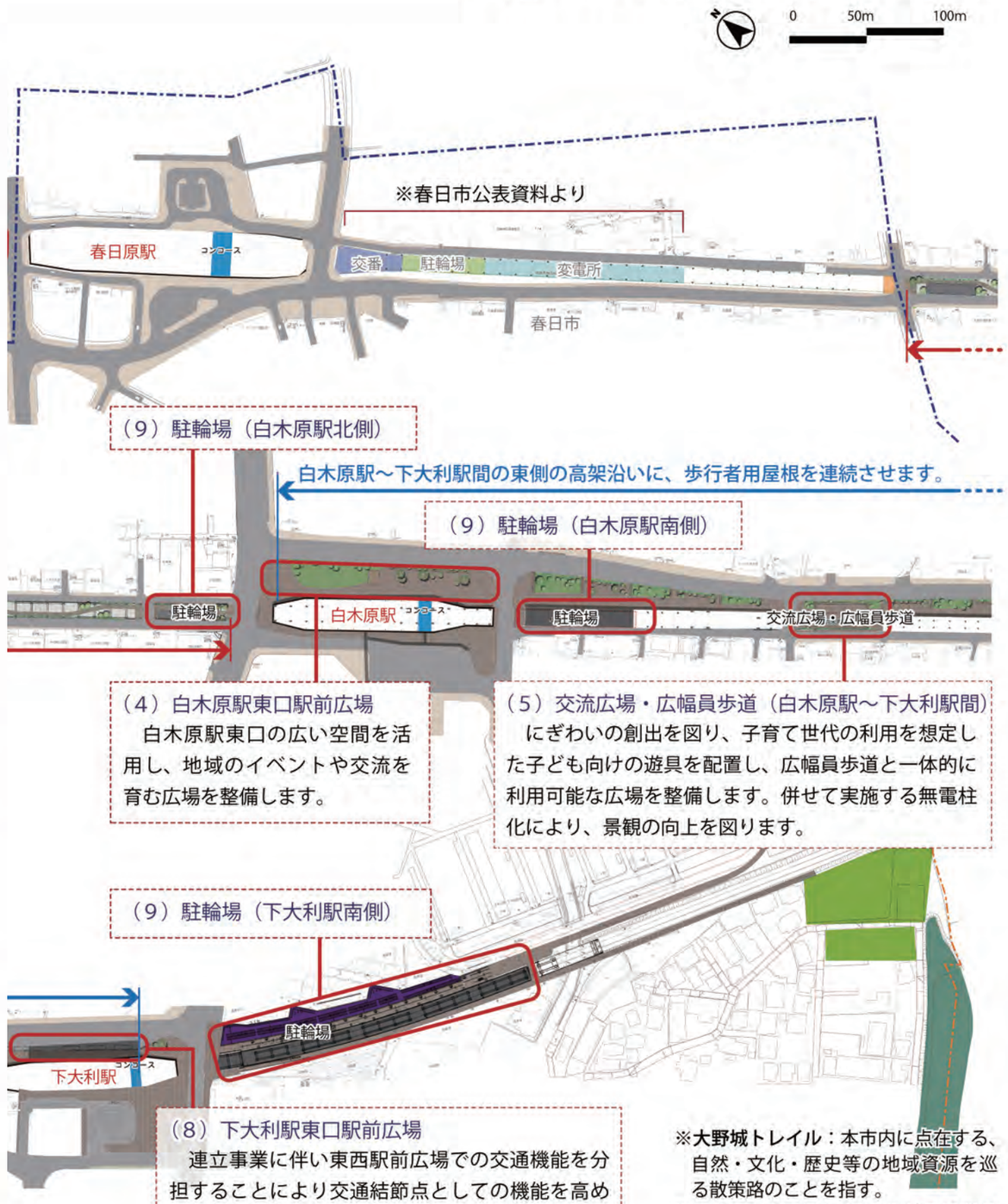
白木原駅～下大利駅間

・西側については歩道が無いため、安全性や圧迫感軽減、建物の裏側感がないように配慮し、１階レベルについては 1mセットバックする。



②東西方向の通り抜け	・通り抜け用の歩行空間を確保する等、歩行者が東西方向に不自由なく行き来できるよう配慮した配置とする。
③交差点のつくり方	・交差点（横断道路部）については、安全性確保や圧迫感軽減に配慮し、３mの歩行空間を確保する。
④未利用地の活用	・整備前の未利用地については、人工芝や簡易舗装等を施し、積極的に暫定利用を行うものとする。

※この図は、イメージであり確定したものではありません。

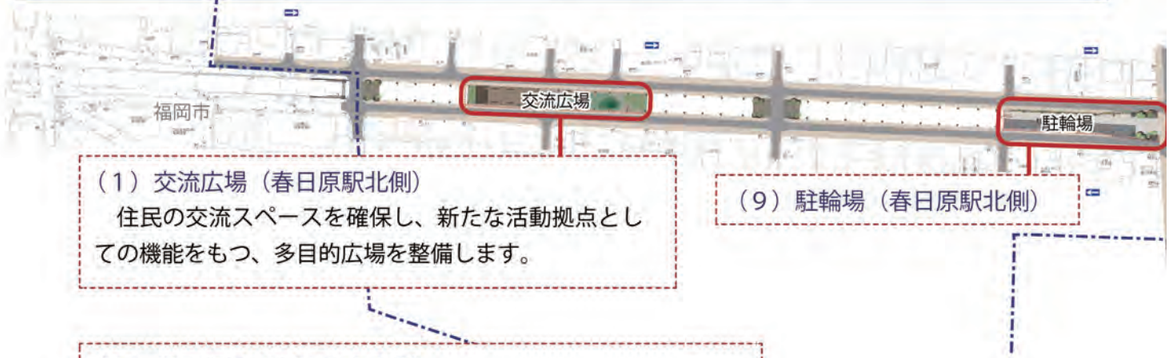


※**大野城トレイル**：本市内に点在する、自然・文化・歴史等の地域資源を巡る散策路のことを指す。
※**コンコース**：改札につながる通路のことを指す。

3．大野城市整備方針

基本計画（案）に基づき、市が整備する施設の機能や規模等について精査し、以下の通り整理しました。

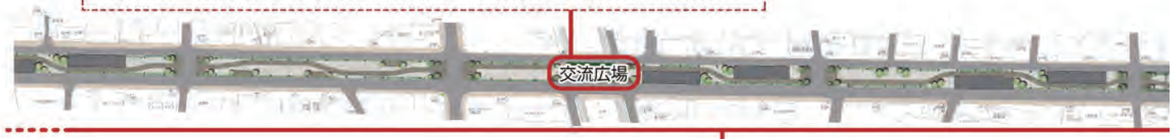
（1）交流広場（春日原駅北側）
（2）交流広場（牛頸川交差部）
（3）遊歩道（春日原駅～白木原駅間）
（4）白木原駅東口駅前広場
（5）交流広場・広幅員歩道（白木原駅～下大利駅間）
（6）広場及び大屋根を備えた複合型交流施設（筑紫中央高校前）
（7）下大利駅北側新公園
（8）下大利駅東口駅前広場
（9）駐輪場（5ヵ所）



（1）交流広場（春日原駅北側）
住民の交流スペースを確保し、新たな活動拠点としての機能をもつ、多目的広場を整備します。

（9）駐輪場（春日原駅北側）

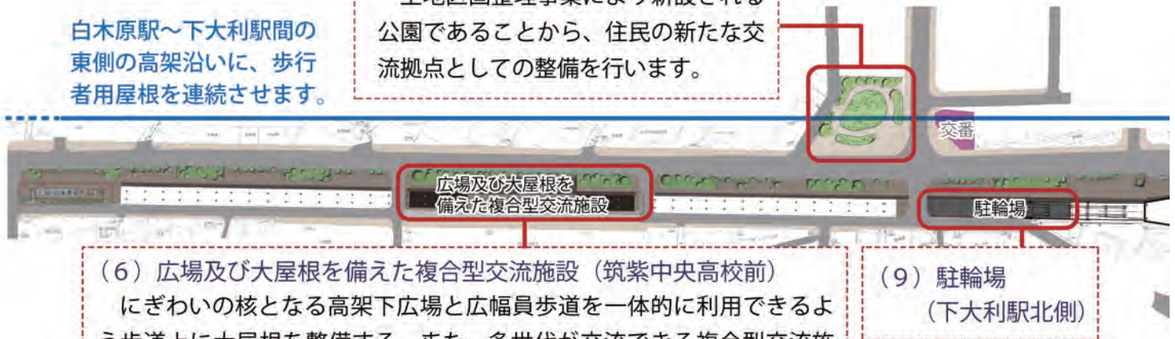
（2）交流広場（牛頸川交差部）
住民の交流スペースを確保し、大野城トレイル利用者や歩行者の拠点としての機能をもつ、多目的広場を整備します。



（3）遊歩道（春日原駅～白木原駅間）
回遊性向上と沿線価値の向上を図り、歩行者の安全性を確保するため、駅間をつなぐ高架下の遊歩道を整備します。

（7）下大利駅北側新公園
土地区画整理事業により新設される公園であることから、住民の新たな交流拠点としての整備を行います。

白木原駅～下大利駅間の東側の高架沿いに、歩行者用屋根を連続させます。



（6）広場及び大屋根を備えた複合型交流施設（筑紫中央高校前）
にぎわいの核となる高架下広場と広幅員歩道を一体的に利用できるよう歩道上に大屋根を整備する。また、多世代が交流できる複合型交流施設を整備し、にぎわいの創出を図ります。

（9）駐輪場
（下大利駅北側）

（2）各要素の考え方

①建築物の高さ
- 高架下建築物の高さは低く抑え、高架下に視線の抜けを確保する等、利用者や近隣住民などに圧迫感を与えないデザインとする。
- 建築物の高さを揃え、まとまりある街並みの形成に配慮する。

②建築設備
- エアコンの室外機などの建築設備は、屋上等目立たない場所に設置する。
- 歩行者から見えにくいだけでなく近隣住宅等周囲からの眺めに配慮し、目隠し等を設ける。

③開口部
- 開口部を設ける際は近隣建物との関係に配慮し、住民のプライバシーの確保を心がけて計画する。
- 開口部をバランスよく設ける等、建物の裏側をつくらないよう配慮したデザインとする。

④屋外広告物
- 屋外広告物は大きさや色味、設置位置等に統一感を持たせたデザインとし、数を減らして質を高めるなど乱立を避けることで景観が繁雑にならないよう配慮する。

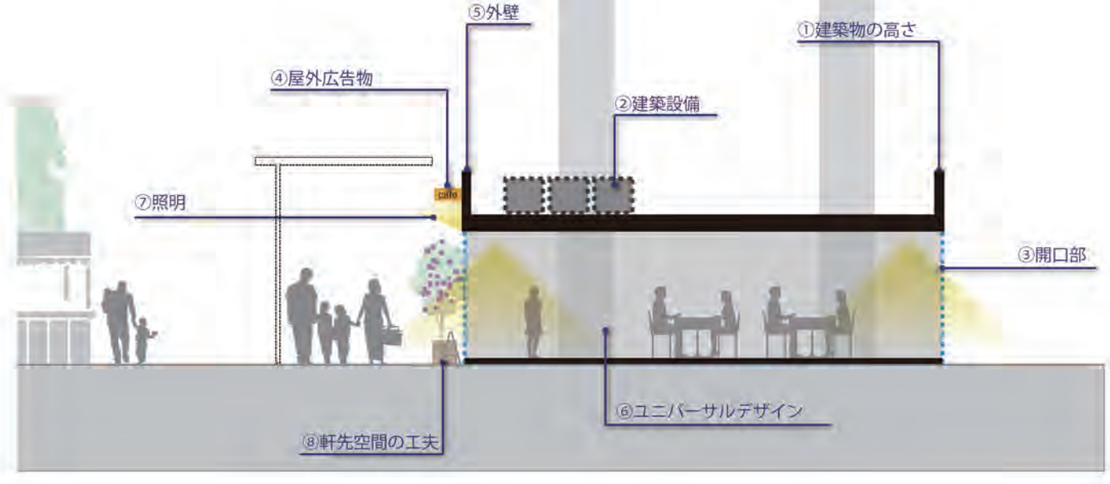
⑤外壁
- 外壁は統一感のある材質や色味のものを用いることで、高架下建築物全体にまとまりの感じられる景観とする。

⑥ユニバーサルデザイン
- すべての人にとってわかりやすいサイン計画や小さな段差の解消、明快な動線計画等、利用者の視点に立って建築物のデザインを行う。

⑦照明
- 建築と照明デザインが一体となり、街並みと調和する魅力ある夜の景観づくりに配慮する。
- 器具や色温度等のデザイン要素の統一を図る。

⑧軒先空間の工夫
- 建築物の周辺には効果的に植栽やＰＲスペースを設ける等、周辺の歩行空間や広場と一体となり、緑や花のうるおいあふれるにぎわい空間を創出する。

⑨駐車・駐輪スペース
- 必要に応じて駐車場を配置して荷捌き等のスペースを確保し、側道の通行の安全性に配慮する。



6．活用基本方針

＜利活用の方向性＞

市民が主役となり、みんなで育む取り組みづくり

基本計画（案）で示されたように、高架下周辺は、市民が主役となり主体的に高架下周辺を活用することにより、にぎわいが生まれ、その活気が周囲に波及することが求められます。その結果、高架下周辺や地域の魅力が発信されていくことが期待されます。ここでは、市民の力によって、学び、活動し、つながっていくことで、高架下周辺のにぎわいが育まれていくための方針や取り組みのイメージを整理します。

学びを育む

- 子どもからお年寄りまで世代毎、世代間の学びの取り組み
- 市民活動の学びやチャレンジを応援する取り組み
- 地域の暮らしや文化・歴史を継承、発信する取り組み

活動を育む

- 地域の資源や地域産業を活用し、地域活性化を促す取り組み
- 新たな交流やイベントなどの活動を生み出す取り組み
- 高架下周辺のさまざまなインフラや設備が連動する取り組み

つながりを育む

- 移動の利便性を高め、まちの回遊へと展開する取り組み
- 市内や周辺の活動と連携し、地域全体の活性化へとつなげる取り組み
- 市民、事業者、行政などの多様な主体が連携した取り組み

学びを育む取り組みイメージ

活動を育む取り組みイメージ

つながりを育む取り組みイメージ

2．コンセプト

【事業コンセプト】・・・高架下及び周辺のプロジェクト全体に関わる方針

『未来をひらくにぎわいとやすらぎの
コミュニティ都市を実現する高架下』

高架下空間が「にぎわい」と「やすらぎ」の軸となり
周辺地域に波及する
質の高い高架下空間がまちと呼応しあうことで
新たな価値を生み出していく

Quality クオリティ
質の高い空間における高い「クオリティ」の確保

・新たな空間や機能

Community コミュニティ

交流を育むまち
- 地域住民も来訪者も利用しやすい憩いの場をつくる
- 新たな交流や活動を生み出し、様々なイベントや活動でも利用できる多様性のある空間をつくる
- 周辺地域との連携によって地域全体の活性化へとつなげる

Education エデュケーション

学びを深めるまち
- 高齢者の生涯学習や子育て世代の幼児教育など、多世代からなる市民の日々の学びを応援できる場をつくる
- 市民の学びやチャレンジに利用できる場をつくる
- 子どもたちが遊んだり、青少年が自由に活動できる場をつくる

Mobility モビリティ

移動が快適なまち
- 鉄道の高架化に伴い新たな東西のつながりを創出する
- 自転車を快適に利用できる場をつくる
- まちの回遊性を高める新たなモビリティ施策を展開する

Wellness ウェルネス

歩くことを楽しむまち
- 高架下空間を活用して沿線を歩きたくなる魅力をつくる
- 自然や歴史などの地域資源をつなぎ、新たな人の動きを生み出す
- 雨の日でも快適に歩ける空間をつくる

Culture カルチャー

新たな文化を築くまち
- 上記の４つの機能を充実させ、質の高い空間をつくっていくことで、大野城市の新たな Culture（文化）が生まれる

【整備コンセプト】・・・空間づくりなど、整備内容に関する方針

Diversity
ダイバーシティ
多様な人々にとって
この場所ならではの
使い方ができるデザイン

Park Line
パークライン
高架沿いから公園のような
雰囲気がまちに広がっていく
歩きたくなるデザイン

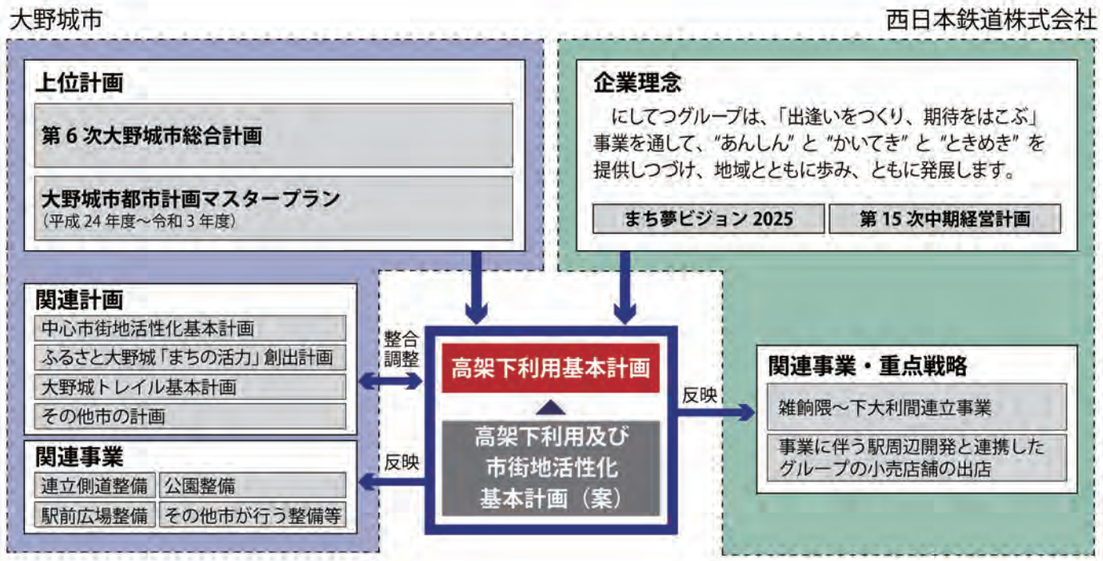
ONOJO Landscape
ランドスケープ
大野城ならではの
新たな風景を生み出す
デザイン

1．はじめに

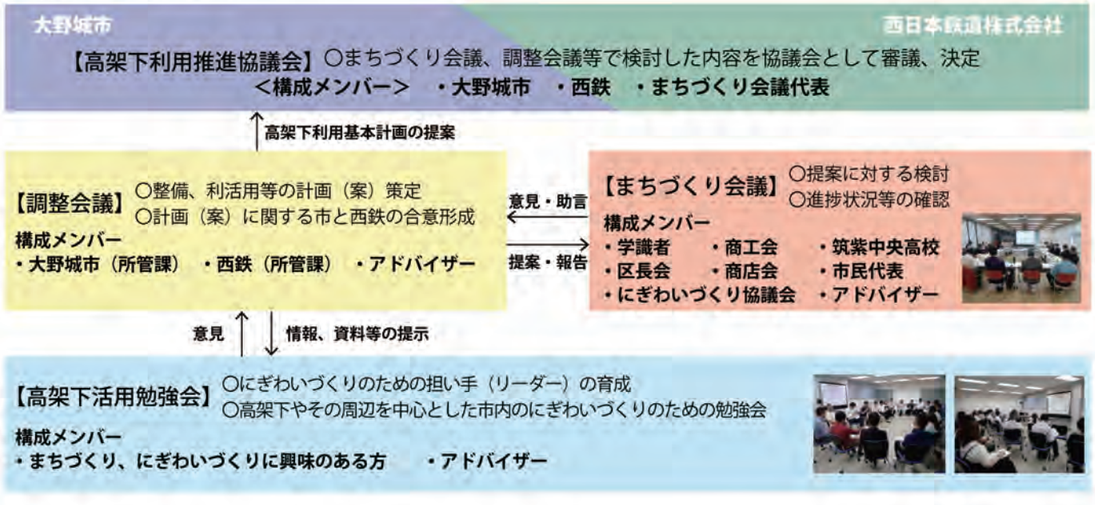
本市では、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業完了にあわせ、駅前広場や側道の整備、土地区画整理事業の実施等、一体的なまちづくりを進めています。そのような中、平成 28 年 3 月に策定した「大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案）」（以下、「基本計画（案）」という。）に基づき、西日本鉄道株式会社との継続的な協議・検討を進めてきました。

本計画においては、高架下空間等の整備や利活用の方針を「高架下利用基本計画」（以下、「本計画」という。）として取りまとめ、実践へと展開していくものとします。

【計画の位置づけ】

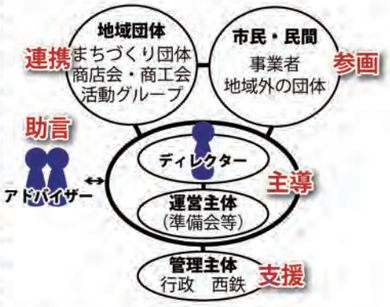
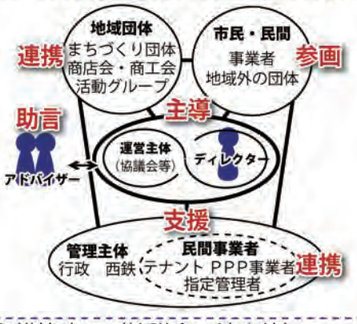


【本計画の検討体制】



＜実現に向けたステップ＞

短期、中期、長期のそれぞれの段階に応じ、効果的な施策を行っていくことで、高架下周辺のにぎわいづくりとその組織や仕組みをみんなで育てます。

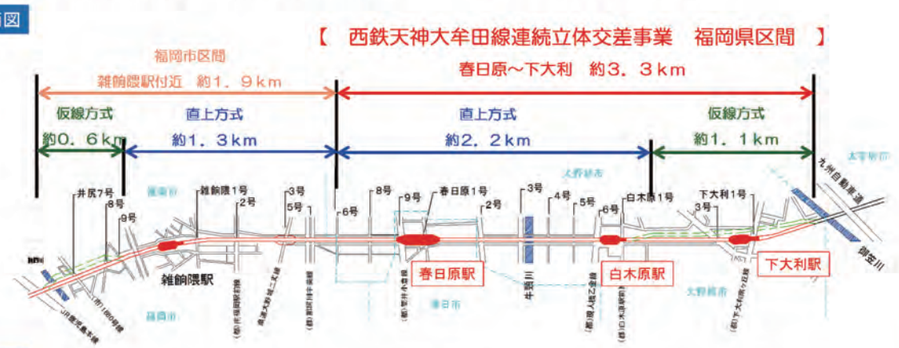
	目標・活動イメージ	必要な役割・体制
準備期 現在～高架切り替え後1年後	**にぎわいづくりの将来像を共有し、個々のポテンシャルを高め、機運を醸成します。** ・目標を共有、課題を把握し、にぎわいづくりの仕組みを検討する。 ・地域団体は、まずはできる取り組みから始め、小さな成果を積み上げ、仲間づくりを行っていく。 ・取り組みを通じ、積極的なＰＲを行うことで高架下事業の認知度を高め、民間参入の可能性を高める。	
	取組み内容 ・管理主体となる行政と西鉄の検討・協議を継続する（協議会等） ・市民や関係団体との意見交換を継続する（まちづくり会議等）	
立ち上げ期 高架切り替え後1年後～4年後	**市民・事業者・行政が連携し、体制と仕組みを整え、効果的なプロモーション（市内外向け）を仕掛けます。** ・部分的に供用された場所等を活用し、将来的な活用を見据えた試行的な取り組み等を行う。 ・地域が主体となり、持続的に高架下周辺の場を使いこなしていくために、仕組みを整備し、将来的に運営主体となることを前提としたメンバーを中心に体制を構築していく。 ・プロモーションを積極的に展開し、高架下事業やプロジェクトを PR する。	
	取組み内容 ・ディレクターを配置し、運営主体を立ち上げる（準備会等） ・行政や西鉄の支援メニューを整える（補助や規制緩和等）	
活動期 高架切り替え後4年後以降	**改善しながら、さらなる展開を図ります。** ・完成した施設や広場等を活用し、本格的な活動を始動していく。 ・民間ノウハウも生かしながら、活動の規模の拡大や、高架下周辺のみならず大野城全域、西鉄沿線や筑紫地域での連携を図る等、より大きな活動へと展開していく。	
	取組み内容 ・ディレクターとともに、自走する運営主体を構築する（協議会、法人等） ・管理主体である行政や西鉄は、テナントなどの民間事業者が積極的な活動を行えるような官民連携事業を展開する（ＰＰＰ事業等）	

【参考】西鉄天神大牟田線（春日原～下大利）連続立体交差事業概要

●事業主体：福岡県　　●延　　長：約 3.3 km

●事業個所：大野城市栄町～大野城市下大利　　●除却踏切数：12 箇所

●平面図



●側面図

●直上部（起点～白木原）

●仮線部（白木原～終点）

●駅舎デザインについて

連立事業により新たに高架駅となる３駅、「春日原駅」、「白木原駅」、「下大利駅」の外装デザインイメージです。駅前広場整備においては、駅舎のデザインとの調和に配慮します。

※この図は、駅の西側のパース図です。
※駅舎及び駅前広場のデザインは、現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

高架下利用基本計画【概要版】（令和２年９月）
福岡県大野城市　建設環境部　連立・高架下活用推進室
〒816-8510　福岡県大野城市曙町二丁目２番１号
TEL:092-580-1967、Fax:092-572-8432、Mail:renritsu@city.onojo.fukuoka.jp

大野城市　連立事業　検索

西鉄天神大牟田線（春日原～下大利）連続立体交差事業

高架下利用基本計画

～高架下から広がるにぎわいとやすらぎのまちづくり～

【概要版】

大野城市

令和２年９月